

第1回学校評議委員会兼学校評価懇話会 一部抜粋

去る、8月4日(火)本校会議室にて 第1回学校評議委員会兼学校評価懇話会が開催されました。評議員の方々よりご意見等をいただきましたので一部ご紹介いたします。

1 学校評議員

平川 美穂子	駒沢大学非常勤講師
佐藤 真義	大興電子通信株式会社 執行役員
永井 紀世彦	一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会 理事
高原 恵美子	植竹二丁目自治会 会長
石井 亮	本校PTA会長

2 学校評価懇話会委員 (メッセージ参加 生徒代表 高等部生徒会長 松下綾夏)

高等部生徒会長	中学部生徒会長
高等部生徒会副会長	中学部生徒会副会長兼寄宿舎役員
高等部生徒会書記	中学部生徒会副会長
高等部生徒会会計	

3 学校評議委員会兼学校懇話会での様子 (一部抜粋)

【学校評議委員会での質疑・応答】

新型コロナウイルス感染症が心配で登校できない生徒もいるのではないかと。今後の授業について、オンライン授業を行うのか。

小学部：
リアルタイムでのオンラインは難しい。子供たちの家庭に環境が整っていないこと。画面に集中することが難しいこと。ただし、今回動画を配信して保護者と一緒に視聴する(学習する)ことはとても効果があったと思っている。保護者からも好評だった。登校して、子供たちと触れ合うことが理想ではあるが、できない場合は動画配信で補っていくこともよいと思う。

中学部：
YouTubeで動画配信を行ったが、見られない家庭、Google Meet面談についても環境が整わず面談ができなかった家庭があるので難しい。家庭の環境も考えながらいろいろ取り組んでいこうと思う。

高等部：
ロイロノートを活用して学習を進めていた。提出をさせ添削をして返す等の機能が整っている。教員もこの休業期間中に使えるようになった。意見の共有などの場面ではすべての教科で対応できているわけではないので、学校が再開した際には補って授業を進めている。

小学部からコンピュータ(プログラミング)の授業を必ずやらなければならないとなったのか。コロナの影響で持ち越されたのか。

プログラミング教育は特定の教科で行うものではなく、全ての教科の中でプログラミング的な思考を養う目的で行うもの。特定のカリキュラムを使ってスキルを高めるという事ではありません。今年からやらなくてはいけないが、教員がそのプログラミング的な考え方ができる人が少ないと思っている。

「目で聴くテレビ」の新しい企画で、子供たちにプログラミング的な考え方を育てるための教材づくりを進めている。ぜひ力をお借りしたいと思う。

小学生のうちから、情報関係の道に進むための最も基本的なところは何か、アイデアがあったら教えてほしい。

基本は好きかどうか。コンピューターだったりiPhoneを触ったりするのが好きかというところ。そこに興味がわけばどんどん入り込んでくる。そういった要素をこの学校の子供たちは持っていると思っている。コンピューターは難しいものではなく、楽しいものなんだと思ってもらえるように、遊んでもらう、使ってもらうことが大事だと思う。

授業の教材づくりは学年単位等でおこなっているのか。生徒向けのコンテンツ作成は色々な学校で同じことをやっているのではないか。色々な学校で作ったものが使えるようにしておくで作る手間が省けるのではないか。働き方改革にもつながると思う。

小学部ではチームや学年団で作成をしている。中・高学部になると各デ教科等で担当が異なるので教材の共有ができない状況。今回作成した動画等は学校のデータ保存用にライブラリーを作成し、共有していく取組を行っている。

乳幼児教育相談等について。地元の学校の聴力検査で、難聴気味ですという話があった時、聞こえの教室等に通っているお子さんの保護者の方たちにフォローをしてもらいたい。大宮ろう学園に来るほどではないが、難聴の子供が地元の学校での教員とのかかわり方や保護者の悩みを聞ければ、この学校の存在感が増すのではないか。

支援部として、今後考えていきたい。

【生徒代表からの質問・回答】

高等部在学中に身に付けておいた方が良い力について教えてほしい。

(高等部生徒会長 松下 綾夏)

- ・自分の言葉で説明ができる力。自分の障害について説明ができること等も含めて。
- ・自分に伝わりにくい情報を得る力。仕事であれば、自分の受け持った仕事以外の仕事とどのような関りや繋がりを持っているかということを考える必要がある。誰かから教えてもらうわけではなく、自分ら目で見えて情報得ることが大切。
- ・プログラミングの技術、データベースの技術、ネットワークの技術、セキュリティの技術等を学んでもらいたい。IoT（モノのインターネット）の業界に出て活躍してほしい。
- ・コミュニケーションが一番大事。自分のことを一方的に話すのではなく、相手は何を求めているのかを自分でつかむ力が大事。
- ・興味のあることを深めること。たくさんの情報を集める力が対話をする力につながり、それをきっかけにして社会の中で幅が広がっていく。きっかけづくりが必要。
- ・とにかくコミュニケーションが大切。
- ・コミュニケーションを得て、その先つながりを持っていけるか。
- ・自分から積極的に踏み出す力。